

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会記録

平成31年3月23日(木)午後0時30分～午後3時40分(9階908会議室)

○出席委員(11名)

委員長	高木 克尚	副委員長	尾形 武
委員	沢井 和宏	委員	二階堂 武文
委員	鈴木 正実	委員	根本 雅昭
委員	小松 良行	委員	村山 国子
委員	小野 京子	委員	山岸 清
委員	渡辺 敏彦		

○欠席委員(なし)

○議題

- 1 意見交換会
- 2 その他

午後0時30分 開 議

(高木克尚委員長) ただいまから東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりでございます。

本日は、これから福島成蹊高校に移動し、意見交換会を行います。出発前に2点確認をお願いいたします。まず、1点目は皆さんの席の上にお配りをさせていただきますアンケートのお願いについてです。本日参加者の高校生に同じものをお配りいたします。意見交換終了後、本日中に回収したいと考えておりますので、ワークショップ開始時に各グループリーダーから参加者に記入と提出をお願いしてください。もう一枚の意見交換会事後感想については、委員の皆さんに記入いただく用紙になっております。こちらについては、意見交換会終了後26日までに、最終日ですね、26日までに事務局までご提出をお願い申し上げます。

次に、2点目ですが、写真撮影についてでございます。本日の参加者には、本人の写真などを市議会のホームページなどに掲載すること、報道の取材の許可は得ておりますが、それ以外の写真撮影、使用の承諾は得ておりません。つまり委員が個人的に同じグループの参加者と写真を撮影し、それを自身のホームページ等に掲載することは認められません。仮に本人が了承しても、参加者は未成年のために保護者の承諾を得ない以上、控えなければならないと思っております。よって、本日は個人的な写真撮影を一切行わないようお願いを申し上げます。

ご質問ございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) あとバスに移動ということになります。準備、おトイレ等今のうちをお願いいたします。

暫時休会いたします。

午後0時33分 休 憩

午後1時30分 再 開

(尾形 武副委員長) これより、福島市議会東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会意見交換会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めます東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会、副委員長の尾形武と申します。どうぞ、よろしくをお願いいたします。

初めに、高木克尚委員長よりご挨拶と本日の趣旨の説明をさせていただきます。高木委員長お願いいたします。

(高木克尚委員長) 皆さん、こんにちは。きょうは参加をいただきまして、誠にありがとうございます。また、本日のこの企画にご賛同を賜りました、高橋理事長、本田校長にも厚く御礼申し上げたいと思います。

趣旨については開会前に司会の尾形副委員長からもありましたように、これから短い時間ですけど皆さんと語り合いたいと思っております。皆さんは、もしかしたら福島市外から通っている方もいらっしゃるかもしれませんが、福島市が誕生したのは明治40年です。今から112年前。その時から、我々福島市議会も存在しております。古い歴史までは調べようがないのですけれども、記録にある限り、我々福島市議会と高校生の皆さんが意見交換するのは初の出来事であります。そういう意味でも、我々福島市議会議員も非常に貴重な経験をさせていただけるなど、大切な日にしたいなとそんな思いをしているところであります。

本題に入る前に、もう一つだけ皆さんにお知らせしながら、喜んでいただきたいのですけれども、来年NHKの朝ドラがエールという番組で、これは福島市が生んだ大作曲家、古関裕而先生を主人公にしたドラマであります。エールというタイトルで放映されますが、この古関裕而先生のたくさんの作曲の作品の中に、皆さんの成蹊高校の校歌があります。生涯5千曲もつくった古関先生は、様々なスポーツ、音楽にも貢献されておって、前回の昭和39年の東京オリンピックのときに、オリンピックマーチという曲の作曲をした方でもあります。オリンピックに大変関係のある、福島市の名誉市民の古関先生のドラマが、来年NHKの朝ドラで放映されるという、そしてその放映される年、来年にきょうのテーマでもあるオリンピックが開催されるという、非常に機会に恵まれたオリンピックになるのかなとこんな思いをしております。

それでは早速本題に入りますが、皆さんに東京2020大会ガイドブックというものをお配りさせていただいております。それを開いていただきたいと思います。ガイドブックの2ページをお開きください。

開催期間は、オリンピックが2020年の7月24日から8月9日まで、パラリンピックが8月25日から9月6日までとなっています。そして、ここ福島では7月24日の開会に先駆けて、開会式の前に全ての競技のスタート種目として、7月22日からソフトボールがこの福島市で開催されます。

10ページから13ページには全国の会場が載っていますが、13ページの一番右上に、野球、ソフトボールの会場であるあづま球場が載っています。2020年にはあづま球場で野球1試合、ソフトボール6試合が予定されておりまして、聖火リレーでは、福島県は宮城県、岩手県と同じく、他の県より1日多い3日間、聖火が走るようになっており、福島県が聖火リレーのスタート地点になります。なぜ、東京オリンピック・パラリンピックなのにこれほど福島で競技などが行われるのか。それは、みなさんもお存じのとおり、2011年の東日本大震災からちょうど10年目となる2020年の大会が、15ページにもあるとおり復興オリンピック・パラリンピックと位置付けられており、大会を通じて、被災地の人々に大きな感動を届けるとともに、被災地を支援していただいた世界の人々に感謝を伝える、と記載されています。世界中から多くの人が観戦に訪れ、また、テレビでも世界中で放映されるであろうオリンピック・パラリンピックは、まさに世界中に感謝を伝える絶好の機会になると思われまます。

では、みなさんならどのように感謝を伝えるでしょうか、というのが、きょうの趣旨の一つであります。震災のときは皆さんは小学校に上がったか、上がらないかですかね。あの時の、震災の夜の真っ暗闇を経験していると思いますが、なかなか記憶には残っていないかもしれませんけれども。電気、水道が止まって、交通も麻痺して、食料などもままならない、そんな夜を迎えてしまった3月11日でありましたが、そのような中で、アメリカとか韓国とか、中国、台湾といったおなじみの国ばかりでなくて、後発開発途上国と呼ばれる、非常にどちらかという豊かさに縁の遠い貧しい国々、例えばスーダンとかタンザニア、カンボジアなど、アフリカや東南アジアの恵まれない国々からも義援金が日本に届いたのがあの震災のときであります。皆さんと同じ世界各国の子供や学生によってチャリティイベントの開催や励ましのメッセージなども寄せていただいたというのも記録がございます。このように、あの震災の時に私たちは世界中から多くの支援を受けてきたということを忘れてはいけないというのが私たちの務めではないかと思ひます。

少し難しい話になりましたが、来年のオリンピック・パラリンピックには、このような意味合いもあるのだということを踏まえていただいて、この後のワークショップでみなさんの自由な意見を聞かせていただきたいと思ひます。

なお、きょうここにポスターを張らせていただいておりますが、実は、きょうのこの意見交換会は東京2020大会の公認プログラムになっています。正式に、皆さんと我々福島市議会の意見交換会は、もうすでに、オリンピックの活動の一つとしてスタートすることになりますし、きょうみなさんと行

う意見交換会は、永久に東京2020オリンピックの公式記録として残ることになりますので、是非そのことも忘れないで、この先もお手伝いいただければと思います。もう既に我々は、オリンピックに参加しているのだということを胸に、きょうの意見交換会を始めていきたいと思いますので、是非、最後までご協力賜りますようお願い申し上げながら、挨拶にかえます。よろしくようお願い申し上げます。

(尾形 武副委員長) それでは、これからグループに分かれてワークショップ会場にご移動いただきたいと思います。それでは皆さん、よろしくお願いいたします。

【この間、ワークショップ】

(尾形 武副委員長) 皆さん、お疲れ様でした。

それでは、これから発表に移りたいと思います。それでは、まずAグループの皆さん、よろしくお願いいたします。

(Aグループ発表者) これからAグループの発表を始めます。よろしくお願いいたします。

私たちのグループでは、まず震災時に世界から受けた支援に対して感謝をどう伝えられるかというテーマで意見を交換した時に、動画配信で感謝を伝えるのがいいのではないかという意見が出て、その中で話をしてみたら、映画をみんなで製作しようとなりました。その映画の製作の内容は、一人の主人公をまずつくって、その主人公が震災時から8年たった今にかけて成長していく過程を映画にしたらいのではないかという意見が出ました。8年前にできなかったことが、今は世界の支援のおかげでできるようになったのだよということを一番は伝えるのが目的です。福島の復興した姿を見せて、ローマ字でF u k u s h i m a と検索したときに、震災のときの画像ばかりだったけど、それで福島のイメージの回復ができるのではないかとなりました。

そして、私たちができることは、映画をつかって、その映画を公開したときに資金が生まれる。一つの夢なのですが、その資金で世界への恩返しできて、例えば形に残る何かをつくるとなると、折り鶴とかモザイクアートというのが意見として出ました。

オリンピック・パラリンピック以降の福島に期待することは、福島に対してのイメージ回復です。以上です。

(尾形 武副委員長) どうもありがとうございました。映画をつくる、非常に素晴らしい。Aグループの皆さん、お疲れ様でした。

それでは、Bグループの皆さん、よろしくお願いいたします。

(Bグループ発表者) まずB班では、どう感謝を伝えるかという意見で、まず、各国の言葉でありがとうと福島の現状をネットで配信するという活動と、支援物資を送って感謝の意を示す。海外から福島へ来た人へ手形でありがとうを伝える、などが出ました。その中で私たちができることというのは、私たちの学校に限るのですが、海外研修のときに感謝を伝えるという意見になりました。

それによってオリンピック・パラリンピック以降の福島に期待することは、福島の活性化や観光客の増加などを期待するという意見になりました。

以上です。

(尾形 武副委員長) どうもありがとうございました。各国の言葉でありがとうをお伝えする。素晴らしいです。ありがとうございました。

それでは、Cグループの皆さん、お願いいたします。

(Cグループ発表者) Cグループとしましては、まずSNSで発信する、ユーチューブで発信する、といった意見がでました。そこで、発信するとなった時に何を発信するのか、それを決めようと思いました。意見を募ったところ、花を配ったり、花壇をつくったり、モザイクアートだったり、田んぼアートだったりとかをやるという話になったのですが、それをまとめてビッグアートという言葉を使わせてもらって、そのビッグアートで何をつくるのかというのは、花という意見が出たので、花を使ったり、あとは笑顔。みんな笑顔になると元気になるので、笑顔の写真を使ったり、花を使ったり、花だったらありがたいの花言葉を持つ花ですとか、そういったものを使ってビッグアートをつくろうという話になりました。

私たちができることとしては、ビッグアートのデザインを考えたり、私たちも笑顔の写真を撮影したり、チラシをつくったりして、他校や市民の方に呼びかけしてもっと多くの人に協力してもらえばいいのではないかという意見が出ました。

もう一つの考えとして、ユーチューブなどでビッグアートの制作過程を撮って、その動画を自ら海外へ出向いて世界の人々に実際に見てもらおうという意見も出ました。そうすることによって、オリンピックに実際に来られない人とかもオリンピックに関わることができるし、福島の今の現状を知ることのできるのをそれをしたいなと思いました。

最後に、オリンピック・パラリンピック以降の福島に期待することなのですが、いろいろ意見が出て、日本と言ったら福島、来たくなるような福島などの意見が出たのですが、結果的に、外国から安心してこられる福島市というふうになりました。

(尾形 武副委員長) どうもありがとうございました。花と笑顔のビッグアートということで、素晴らしいかと思います。

それでは、Dグループお願いします。

(Dグループ発表者) まず僕たちは、感謝の伝え方ということで、成蹊高校で行われる学園祭、桃李祭といったイベントを利用してオリンピックにうまくつなげられるといいなということで、桃李祭で感謝を込めたメッセージをどうやって伝えるかということで、一つ、自分たちでできるプロジェクトを考案したのですが、ネーミング見てほしいのですが、桃李ンピックということで、これはオリンピックと桃李祭、成蹊高校の学園祭の名前なのですが、それを合体させて桃李ンピック、そのプロジェクトの名前が桃李ンピックプロジェクトということで、僕たちは普段の生活、学園生活で自分たちが元気だよってということをオリンピックの観光客に伝えるとか、写真とかを使って伝えるとか、学園祭の中でオリンピックの関連イベントをやってみるとか、そのような内容です。そ

れで、そういったものをどうやって発信するか、そのツールなのですけれども、情報発信力ということでSNSはそれに欠かせないと思うのですけれども、例えば福島市のホームページとかを利用して、自分たちの学園祭の状況とかを写真とか動画で伝えられればいいなということで、結構実現性の高いプロジェクトを考案したのですけれども、最後にまとめとして、このプロジェクトを実行するにあたって、来年自分たちがどういうふうにプロジェクトに向けて行動できるかということこれから考えて、来年の学園祭につなげていけたらなと思います。

(尾形 武副委員長) どうもありがとうございました。桃李ンピックということで、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、Eグループお願いします。

(Eグループ発表者) 私たちの班で出た意見は、海外のメディア関係者に伝えたりとかして、ユーチューブに感謝を伝えた動画をアップして伝えたりとか、その動画をマルチビジョンで映しだしたりとか、ビッグアート、鶴を重ねたりして大きな絵をつくってみたり、感謝の言葉を伝えてみたり、目で感謝の言葉が伝わってくるようなものができたらいいなと思いました。また、花見山の花を使って感謝を伝えるといった意見も出ました。自分たちが元気になったところを世界の人に見てもらったりできたらいいなと思ったり、世界の郷土料理をレストランで出して、世界の人々を迎えることができたらいいなと思いました。

福島に期待することは、人口がこれから増えてほしかったり、原発事故で悪いイメージが福島には持たれてしまったので、そういう悪いイメージが払拭できたらいいなと思ったり、商店街がにぎやかになるとか、福島が活性化すればいいなということになりました。ボランティアに参加したり、オリンピックを契機にボランティアに参加してみたりとか、若い人が楽しいと思うイベント、例えば有名な歌手とかを呼んで、福島が活性化できるようなことができたらいいなというような意見が出ました。

以上です。

(尾形 武副委員長) ありがとうございました。ユーチューブ、マルチビジョンということでした。お疲れ様でした。各グループの皆さんから、それぞれ素晴らしい思い、発想を発表していただきました。本当にありがとうございました。

それではここで、成蹊高校の校長先生であります本田校長先生から一言講評をお願いいたします。

(本田哲朗校長) 皆さん、こんにちは。講評に入る前に、まずは会場校として選んでいただいたことにつきまして感謝申し上げたいと思います。講評に入る前に、調査特別委員会の委員長さんであります高木さんの話を聞いていて、思う部分があったものですからお話をさせていただきたいのですが、諸君はオリンピックが大震災からの災害復興の意味を持っているのだというお話を耳にしたと思うのですけれども、実は昭和39年の東京オリンピックのとき、私は11歳で、その時の記憶を呼び戻して考えてみたのですけれども、当時使われた言葉は戦後復興という言葉がよく使われたと思うのです。戦争が終わって19年目だったと思うのですけれども、日本がこんなに元気になったのだと。つまり、戦

争の後も世界の支援を受けて日本が立ち直ってきた、それを世界の人々に見てもらうためのオリンピックという意味合いも確かあったのではないかと、記憶をたどって呼び戻した次第です。今度は特に、東日本大震災の中で、一番復興の足が遅い福島県。その理由というのが原発事故というのがあるのですけれども、宮城県、岩手県に比べると、それが足を引っ張ってなかなか先に進めない現状が今ある訳です。そういった中で、聖火リレーが福島県から始まって、東京に行きつくという榮譽もあるので、是非そういった状況を考えて、諸君たちが元気になって福島を盛り上げていってもらえればいいなと思いつつ、皆さんの意見交換を聞かせてもらいました。その結果ですね、やはり今の世代なのだと思ったことは、情報発信に欠かせないSNSであるとかユーチューブということを目にして、時代の流れなのだということを感じさせられながら聞いていたということでもあります。ただ、一人一人がこういう機会をもらったことによって、日常の中できっと歩みを止めてこのオリンピック・パラリンピックに向き合った時間ではなかったのかなと。そういうこともあって、非常にいい意見がたくさん出ていたように思います。

私も、教育現場でやっている一人として、教育現場でアクティブラーニングという言葉がよく使われます。このアクティブラーニングというのは、相互相互で意見を交わしたりして、展開して教育を深めていくというようなことなのですが、実は私たち教育現場ではなかなかそういったことが成功していません。ところがですね、議員さんが非常にいいファシリテーターの役をして、子供たちの思い、考えを引き出して、まさにアクティブラーニングを実施していたなというのを目の当たりに見て、教育現場でこの経験を生かさなくてはならないなというふうに強く思った次第であります。そういった意味では、教育に関わる一人として、心から感謝申し上げたいなと思います。

また、生徒諸君も、きょうのこの場でだけでなく、学校の授業とかクラブ活動とかボランティア活動とか生徒会活動の中で、きょうの経験を生かして自分の意見を発表したり、質問したり、意見を交換しながら、より自分の考えを深めるということを実践していってもらえればありがたいなと思います。

結びに、福島県がさらに復興するためのキーワードは何だと思いますか。それは、これからの主役である諸君たちが一番、元気に生き生きと生きている福島の姿ではないのかなと思うのです。ぜひ諸君たちがそういう高校生活を送ることで、福島県が魅力的な県なのだということを発信していきましょう。つたない言葉ではありましたが、きょうのこの日を感謝申し上げまして、私からの講評とさせていただきます。

(尾形 武副委員長) 校長先生、ありがとうございました。

それでは、高木委員長よりご挨拶をお願いいたします。

(高木克尚委員長) お疲れ様でございました。きょうスタートする際には、皆さんシャイな方が多いのかな、静かなのかなと思いつつ、不安な部分もあったのですが、スタートしましたら、皆さん結構お話しするんですね。びっくりしました。それにつられて、市議員が学校の先生に見えてきました、きよ

う。そんな雰囲気あったでしょう。頼もしい仲間とひと時を過ごせたこと、改めて感謝を申し上げますと思います。

きょう感じたことは、思いもよらなかったのですが、浜通り出身の生徒さんがいて、何かつらい思い出を思い起こさせてしまったのではないかなとそんなお詫びをまずしたいなと思っております。ただ、改めて浜通りから福島に来た方々の意見も含めて、福島市の宝物、財産をもう一回みんなで見直そうとそんな雰囲気になったことは大変良かったなと思えますし、共通しておるのは皆さんが夢物語ではなくて、きちんと今の福島の現状、分析ができて、具体的にこういうことなら可能だというそういうアイデアをお持ちだったということに非常に驚きを隠せないでおります。

それから、全てのグループ共通だったと思うのですが、特にA班から報告があったように、実はこれから皆さんは長い期間、この先ずっとSNSとお付き合いする、そういう若い方々であります。是非、この福島を紹介するときに、今現在漢字の福島で検索しますと福島県の素晴らしい環境、自然がリストアップされるのですが、ローマ字でF u k u s h i m aで検索すると、あの震災の悲惨な姿しかヒットしないのですよね。ですから、これから皆さんが、SNSでさまざまな情報を発信していただけるときは、是非ローマ字で、世界中の方々がローマ字で検索したときに福島の素晴らしい自然、環境、福島のよさにヒットできるよう、ローマ字のF u k u s h i m aで発信を是非お願いしたいと思っております。

最後に、きょうNHKさんで放送していただけることになっております。午後6時45分の地方版で予定をされておりますので、なるべく早くお帰りになって自分の姿を探していただければ幸いに思います。

重ね重ね、きょうは本当にありがとうございました。これからもよろしくお願ひいたします。

(尾形 武副委員長) 皆さん、大変お疲れ様でございました。ありがとうございました。以上で東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会意見交換会を終了いたします。

午後3時40分 散 会

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員長

高木 克尚